

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究における各自の研究活動」

～研究内容の共有と本時のチーム・研究テーマの確定、および研究計画への着手～

2. 本時の主題の概要および設定理由

前時までにおいて、生徒は各自の興味・関心に基づいて研究グループ(以下、チーム)を仮編成し、仮の研究テーマを設定して先行研究等の調査やリサーチクエスションの基礎的な検討を行ってきた。

本時では、これまでの検討内容を各チーム1分で発表する「研究内容共有会」を実施する。この共有会を通じて、他チームの研究アイデアや視点に触れ、自己の興味・関心と本当に合致しているか、現在のチームで1年半にわたる研究活動を高いモチベーションで継続できるかをメタ認知的に再考させる。

発表後、生徒は必要に応じてチームの再編やメンバーの移動を行い、本時中にチームおよび当面の「研究テーマ」を最終決定(確定)する。確定後は、今後の本格的な探究のサイクル(リサーチクエスションの導出、仮説設定、研究計画立案)を見据え、共同編集ファイルである『研究計画書兼報告書』を新規作成し、各自の進捗に合わせた研究活動(先行研究のさらなる調査、問いの具体化など)および『探究ノート』への活動記録の記述を開始する。これら一連の活動は、長期にわたる課題研究の論理的・実践的な基盤を強固にするために極めて重要であるため、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **研究の共有と自己省察(メタ認知):** 自チームの現時点での研究内容を簡潔に発表するとともに、他チームの発表を聞くことで、自己の興味・関心やチーム編成の妥当性を客観的に省察し、必要に応じて他チームへの移動や再編を含めて適切な判断ができる。
- 2) **チームおよび研究テーマの最終決定:** 「1チーム2～4名(または個人研究)」という条件のもと、自己の興味・関心に最も合致したチーム編成および当面の「研究テーマ」を主体的に選択し、最終決定することができる。
- 3) **研究計画の立案に向けた活動の開始:** 確定したチーム(または個人)で共同編集用ファイル『研究計画書兼報告書』を適切に作成・命名し、スライドを参考にしながら先行研究の調査や「問い」の具体化に向けた探究活動に協働的かつ計画的に着手することができる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第19回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』、『研究内容共有会スライド』
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)

『SS I 分野&担当教員一覧』

- 共通参照資料: 『高1 SSI 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認 ● 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 ● 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第19回授業スライド(PDF版)』を表示する。	● ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 ● 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
5分	(2) 共有会に向けた趣旨説明および直前準備 ● 本時に行う「研究内容共有会」の目的(自分の興味関心とチーム編成が合致しているかを再検討・最終確定するための指標とすること)を理解する。 ● Google Classroomに配信された『研究内容共有会スライド』を開き、1分間の発表に向けた最終確認を行う。	● 共有会を実施する意義(1年半継続できるチーム・テーマかどうかの判断材料にすること)を丁寧に説明し、主体的な参加を促す。 ● 各チームのスライドに、現時点での仮テーマ、キーワード、参考文献、進捗状況などが記載されているか確認させる。 ※物理・化学・生物の理科3教室 チーム編成段階で同様の共有を終えている場合、本共有会をスキップして即座に研究活動(15分以降の活動)へ移行するようあらかじめ指示しておく。
13分	(3) 研究内容共有会 ● 各チーム、持ち時間1分を目安に、現時点で考えている研究内容(仮のテーマ、キーワード、疑問点、今後の展望など)を簡潔に発表する。 ● 他チームの発表を傾聴し、自身の興味関心と合致するチームや、参考になるアプローチがないかを客観的に評価する。	● 教員はスライドの進行管理を行い、テンポよく次々と発表させる(同一チーム内から代表生徒1名が説明する形式でよい)。 ● 全チームが時間内に発表を終えられるよう、タイムキーピングを徹底する。
3分	(4) チーム確定および今後の研究活動に関する説明 ● 共有会での発表内容を踏まえ、本日中にチーム(および当面の研究テーマ)を最終決定することを理解する。 ● 探究のサイクル(テーマ設定、問いとリサーチクエスチョンの設定、仮説立案、検証方法検討)の全体像を確認する。 ● 共同編集ファイル『研究計画書兼報告書』のコピー作成手順と命名ルール(「[チーム番号]研究計画兼報告書」)を把握する。 ● 『探究ノート』を開き、「①本日の予定・目標」を記述する。	● 共有会の成果を踏まえ、チームの変更、分割、新規合流、個人研究への移行が本日まで可能であることを周知する。他教室へ移動する際は必ず担当教員に申告させる。 ● 探究ノートに本日の目標を記述したことを確認してから、個々のワークへ移行させる。
23分	(5) チーム(個別)課題探究ワークの実践 チーム編成の変更を希望する生徒は、教員への申し出および教室移動を行う。 チームが確定した生徒から、各自の進捗に沿って以下の活動を協働的・主体的に進める。 ● 共同編集用ファイル『研究計画書兼報告書』の新規作成、名前変更、メンバーの共有	● 教室の教員で手分けしてチームごとに個別面談を行い、大まかな研究計画や疑問点を聞き取りながら、専門的な視点から個別に助言・指導(ファシリテーション)を行う。 ● テーマ設定や問いの具体化が難航しているチームに対しては、「なぜその課題が生じるのか」「誰にとっての問題か」など、具体化(「いつ」「どこで」「誰が」)を促す発問を行う。 ● 活動が形骸化しないよう、各チームが本時中に必ず共同

	設定。 ● 設定した研究テーマに関する先行研究(インターネットや論文等)の調査。 ● リサーチクエスチョン(RQ)の検討と具体化(言葉の定義の確認や多面的なアプローチによる問いの発展)。	編集ファイルの作成を完了し、リサーチクエスチョンの導出または先行研究調査に着手しているか机間巡視で確認する。
2分	(6) 本時の振り返りと今後の見通し ● 本時の活動内容を振り返り、個人端末から『探究ノート』の活動記録欄に記入する。 ● 次回以降、本格的に研究計画の策定に移ることを確認し、ホームルーム教室への移動準備を行う。	● 『探究ノート』の記入が全員完了しているか確認する。 ● 本時のワークへの取り組みを肯定的に評価(講評)し、長期的な研究活動に向けた動機付けを行う。